

# 日語「名詞する」的構句條件與意義類型

李偉煌

靜宜大學日本語文學系 副教授

## 摘要

英語裡有為數尚多如「bicycle」一般由名詞轉換動詞使用的名詞，而日語中也有如「蓋する」「主婦する」「塩・コショウする」「お茶する」「哲学する」等所謂「名詞轉換動詞」，雖是不含動作性的名詞、卻因「する」的附加而成為動詞使用。

本論文首先導入英語中名詞轉換動詞的意義類型，嘗試將日語中不含有動作性的名詞類型化。然後，再以所謂「特質構造」(Qualia structure)的概念為基礎，分析名詞的特質構造，整理各類名詞轉換動詞的語彙概念構造(Lexical Conceptual Structure)基本類型。

研究結果發現，日語「名詞する」構句的成立條件，與「動詞動作事態的理解方式不同」、「名詞的事件化(活動化)」兩個語彙概念有很深的關聯。

關鍵詞：名詞轉換動詞、特質構造、語彙概念構造、事態的理解方式、事件化

受理日期：2014.03.10

通過日期：2014.05.23

# Japanese "noun +する" in the condition of sentence structure and the type of significance

Lee Wei-huang

Associate Professor in Providence University

## Abstract

In English there is an amount of nouns as "bicycle", a noun converted into a verb generally, also in Japanese as 「蓋する」「主婦する」「塩・コショウする」「お茶する」「哲学する」, so-called "nouns converted into verbs", although they are not the action nouns, however, because of "する" in addition they became the verbs.

In this dissertation, first, import the English type of significance that nouns converted into verbs, try to classify the Japanese non-action nouns. Then, use the concept of "Qualia structure" as a base, and analyze the qualia structure of nouns, finally organize the basic types of Lexical Conceptual Structure of all sorts of nouns converted into verbs.

The results showed, the established conditions in Japanese "noun + する" structural sentences, and "the different understanding ways in the action situation of verb", and "the event of nouns", these vocabulary concepts are deeply relational.

Keywords: nouns converted into verbs, Qualia structure, Lexical Conceptual Structure, way of understanding, the event.

# 「名詞する」の意味タイプと構文条件をめぐって

李偉煌

静宜大学日本語文学系 副教授

## 要旨

英語には「bicycle」のような名詞から転換した動詞が多数あるのに対し、日本語にも、「蓋する」「主婦する」「塩・コショウする」「お茶する」「哲学する」のような、動作性を意味しない名詞でありながら、「する」の付加によって、動詞として捉えられるようになる、いわゆる「名詞転換動詞」が存在している。

本稿では、まず英語における名詞転換動詞の意味タイプを導入するとともに、日本語における動作性を意味しない名詞の意味タイプの類型化を試みた。そして、特質構造 (Qualia structure) という概念に基づきながら、名詞の特質構造を分析し、各類型の名詞転換動詞の語彙概念構造 (Lexical Conceptual Structure) の基本形をまとめてみた。

その結果、「事象の捉え方の違い」と「名詞のデキゴト化 (イベント化)」という語彙概念が日本語における「名詞する」の構文条件に深く関わっていることが明らかになった。

キーワード：名詞転換動詞・特質構造・語彙概念構造・事象の捉え方・デキゴト化

# 「名詞する」の意味タイプと構文条件をめぐって

李偉煌

静宜大学日本語文学系 副教授

## 1. はじめに

英語には「bicycle」のような名詞から転換した動詞が多数あるのに対し、日本語にも、「蓋する」「主婦する」「塩・コショウする」「お茶する」「哲学する」のような名詞から転換した動詞が存在している。本稿は、日本語における「名詞する」構文の意味構造を明らかにすることが目的である。

### 1.1 英語の名詞転換動詞

名詞転換動詞は形態論だけでなく、意味論、語用論、統語論といった観点から非常に興味深い特徴を備えている。英語では、もっとも包括的な研究である Clark & Clark(1979)に示された分類を掲げておこう。

- a. Instrument verbs : John bicycled into town.
- b. Agent verbs : John butchered the cow
- c. Location verbs : He kenneled the dog.
- d. Goal and source verbs : Edward powered the aspirin.
- e. Locatum verbs : They carpeted the floor
- f. Duration verbs : Julia summered in Paris
- g. Miscellaneous : lunch, breakfast, tea; fish, whale, blackberry, rain, snow<sup>1</sup>

上の例で示したように、英語では見かけ上の変換なしで、品詞を転換する現象が豊富に見られる。幼児が別に苦労もなく立派に英語の転換動詞を習得できるというのは、目に見えない深いレベルで何

---

<sup>1</sup> 影山太郎・由本陽子(1997) p13-p14

らかの一般的な原理が働いていることを示唆している。

## 1.2 日本語における名詞転換動詞

日本語では名詞をそのまま動詞として用いることは基本的に無理である。日本語では動詞屈折として現在形「-る」ないし「-た」が必要であるから、直接、名詞に「-る」を付けた表現か（事故→事故る、パニック→パニックる）、または「-する」のように「する」の付加によって、動詞として使うことが多く見られる（お茶する、塩コショウする、哲学する）が、一時的な流行ないし俗語とみなされる場合が多い。名詞、動詞などの品詞が形態的に弁別される日本語では、純粋な名詞に述語の働きを背負わせることはできない。そのため、名詞と動詞の両方を明示した複合語という形態を用いて表現することが必要である。

影山太郎・由本陽子(1997)によれば、日本語の名詞転換動詞としては、統語的複合と語彙的複合のレベルから、次のように取り挙げられる場合が多い。

- a. 二字漢語：読書、入社、通学、送金、登山、発車、来日、電送
- b. 四字漢語：海外旅行、意思表示、交通整理、地方発送、工場生産
- c. 和語名詞化：あら探し、値下げ、店じまい、心変わり、水洗い
- d. 和語動詞：値切る、旅立つ、泡立つ、爪弾く、身構える<sup>2</sup>

日本語には上のような名詞+動詞の複合述語が多数あり、形態的または派生のレベルによってさまざまに分類することができる。特に a. b. c の例では、そのままでは時制や動作を表せないので、「する」を伴うのが普通である。

## 1.3 本稿で扱われる名詞

上述した名詞変換動詞の種類のほか、日本語には、「病気になる・

---

<sup>2</sup> 影山太郎・由本陽子(1997) p43。現在、日本語学では、和語動詞の名詞化や動詞分類に大きな疑義が出されて再検討が始まっている。本稿では紙幅のため、近年の研究動向の把握に深入りしないことにする。

電話する・メモする・ファクスする・芝居する・トランプする」のような動作性をもつ名詞が「する」の付加によって動詞として表現されるものもあれば、「蓋する・主婦する・塩コショウする・お茶する・哲学する」のような動作性を持たない名詞が「する」の付加によって動詞として使われているものもある。

「お茶する」という表現は、人によって判断の基準が違い、揺れのある表現とされている。場合によって俗語や一時的な流行語として扱われることもあるが、今の時代において、ネットでこういった揺れのある語がたくさん使用されていることも事実である。

本稿では、「電話」「メモ」「トランプ」などのような動作性が含意される名詞を研究の対象から外し、「蓋」「主婦」「哲学」のような動作性を意味しない名詞に焦点を絞り、考察を行うこととする。

## 2. 考察対象

### 2.1 分類語彙表の「体」の部

『分類語彙表』(2004)は「用」の部と「体」の部とに分けられているが、本稿では「体」の部に下位分類された、「人間活動の主体の類」「人間活動の精神面の類」「人間活動のための生産物及び道具の類」の三つのカテゴリーから、名詞が動詞として使われる可能性があるかないかに基づいて、名詞を取りあげ、考察を行った。なお、「体」の部に挙げられた「自然物及び自然現象」の名詞は、ほとんど人間の体や生理現象、健康・病気をめぐる一連の名詞であるため、本稿の考察対象から外すことにした。

### 2.2 グーグルでの検索・分析

1.3で述べたように、「お茶する」といった表現をめぐって、その適切性は人によって判断基準が違い、揺れのある語、または俗語や流行語として扱われているが、今の時代では、このような表現がブログで多用されているのも事実である。まだ定着されず、変化進行

中の表現を考察していくには、データベースに収められている用例だけでは、しばしば限界に達したことがある。生きている表現を採取するには、ネットで公開された多数のブログやホームページから実例を引用するのがもっとも効率的であり、日本語の今をうまく捉えることもできるのである。こうした理由に基づいて、本稿では、グーグルを用い、ネットで公開されたブログやホームページから用例を検索し分析を行うことにした。

### 3. 分析方法

#### 3.1 名詞の特質構造

Pustejovsky(1995)は名詞の意味的特性を詳しく検討し、特質構造(Qualia structure)という表示を提案している。

特質構造というのは、基本的にはモノの性質を表すもので、次の四つの要素から成り立っている。

- a. 構成役割 Constitutive role: そのものを構成する部分・部品、中身、材料、～の一部分などの内的な性質。
- b. 形式役割 Formal role: その動詞が表す事象(eventuality)のタイプ(activity, state, process, transition)。具象物か抽象物か、自然物か人工物か、液体か個体か気体か、性別、形状などの外的な属性。
- c. 目的役割 Teric role: その動詞が本来的に含意する動作目的や機能。
- d. 主体役割 Agentive role: その動詞表現が成立するための前提(presupposition)やフレーム(場面や背景状況)。それを生み出す動作や原因、成り立ち、出处。

これに基づくと、book という名詞の特質構造は、以下のようになる。

- a. 構成役割=paper(x), information(y) (紙・情報)
- b. 形式役割=artifact(x, y) (人工物)

- c. 目的役割=read(e, x, y) (読者(w)がその情報(y)を読む)
- d. 主体役割=write(e', x, y) (著者(z)が情報(y)を書く)<sup>3</sup>

book が動詞として使われると、「記入する・予約する」という意味になる。つまり、dの意味が利用されることになる。このことは、「名詞転換動詞」という名称にもかかわらず、実質的に「転換」されるのは、book という名詞形態ではなく、book の持つ多義性の中の一つの意味である、ということを示している。したがって、転換という現象は単なる品詞や形態の問題ではなく、意味構造の問題として捉えなければならないのである。

### 3.2 動詞の語彙概念構造

語彙概念構造 (Lexical Conceptual Structure) は、1970年代の生成意味論に端を発し、その後、Jackendoff(1990)などにより展開されてきた意味理論で、動詞の概念意味を明確に表示し、統語構造と意味構造の関係を明確化しようとする。

何千、何万とある動詞は、ばらばらな意味構造を持つのではなく、「移動」「状態変化」「活動」などの意味タイプによって幾つかのグループにまとまる。それらは、外界の出来事を認識し、動詞として言語化する際の式型 (スキーマ) になる。それは、幾つかの限られた意味述語と、それがとる項 (外項と内項) とで構成される。

動詞の語彙概念構造の基本形は、以下の4つに分類する。

- a. 状態(state) (アル型)

[ [ ]y BE AT-[ ]z ]

- b. 動き(ナル型)

- 1. 変化(change)

[ BECOME [ [ ]y BE AT-[ ]z ] ]

- 2. 移動(motion)

---

<sup>3</sup> 影山太郎(1999) p44

[ [ ]y MOVE [ Path ] z ]

c. 活動(activity) (スル型)

[ [ ]x ACT ON-[ ]y ]

d. 使役(causation)

[ [ ]x CAUSE [BECOME[ [ ]y BE AT-[ ]z ] ] ]

使役の結果、「状態」や「変化」がある場合、自動詞が「変化」の概念を含むのに対して、他動詞は「変化」と「使役」の概念に分解することができる。

風呂上りで体が暖かい : y BE AT z [ATATAKA 状態]

風呂に入ると体が暖まる : y BECOME AT z [[ATATAKA 状態]+変化]

風呂に入って体を暖める : x CAUSE y BECOME AT z [[[ATATAKA 状態]+変化]+使役]<sup>4</sup>

新しい動詞ができる場合は、このスキーマに基づいて生成されるのが語彙概念構造の考え方の仮説である。

#### 4. 名詞転換動詞の意味タイプと概念構造

ここでは、まず英語における名詞転換動詞の意味タイプを導入するとともに、日本語における動作性を意味しない名詞の意味タイプの類型化を試みたい。そして、特質構造という概念に基づきながら、名詞の特質構造の役割を分析し、各類型の名詞転換動詞の語彙概念構造の基本形をまとめることにする。

##### 4.1 道具名詞

###### 4.1.1 用例

「蓋する、マフラーする、ブラシする、ティッシュする・・・」

(1) シチューとかを煮込むときって、お鍋に蓋するものですか？昨

---

<sup>4</sup> 影山太郎(1999) p65-p66

日はそれで主人とケンカになってしまいました(>\_<)もともと口煩い人なんですけどね～。

[http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question\\_detail/q102072070](http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q102072070)

- (2) もうマフラーする季節ですよ？まだ早いですか？？全く問題無いと思います！！私も学校にマフラーして行ってますし周りも普通に使っているので大丈夫だと思います(^)

[http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question\\_detail/q1396964908](http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1396964908)

- (3) ブラシするよー。の掛け声で、犬たちがわらわらと集合。なぜか、犬たちはブラシが好きです。とくにペコはブラシが大好きで、ブラシのときだけは、いつまでも、「やって、やって」と催促。コっちゃんも、ブラシ大好き。

<http://jrtmona.exblog.jp/6299372>

- (4) よく鼻ティッシュする同志の皆さんなら分かると思うのですが、このままティッシュを取ると鼻水がくっついて垂れてしまいます。

<http://tksbkmtr.blog.fc2.com/blog-entry-193.html>

#### 4.1.2 特質構造

道具名詞は、人工的なものがほとんどである。ここでは「構成役割」と「形式役割」の分析を省略する。

「蓋」:

目的役割＝熱さや風味を器の中に閉じ込める。

主体役割＝動作主が蓋で中のものを外へ逃がさないようにする。

「マフラー」:

目的役割＝暖かさを保つ。

主体役割＝動作主が寒さ対策のため、マフラーで体を暖かくする。

「ブラシ」:

目的役割：髪の毛や毛を整える。

主体役割：動作主がブラシで動作の受け手を気持ち良くさせる。

「鼻ティッシュ」:

目的役割：何かものを拭く。

主体役割：動作主がティッシュを使って鼻水が垂れるのを防ぐ。

#### 4.1.3 語彙概念構造

道具名詞の語彙概念構造を次のようにまとめることができよう。

[ [ ]<sub>x</sub> ACT ON-[ ]<sub>y</sub> BY-MEANS-OF [Thing Noun] ]

(x が「名詞」を使って y に働きかける)

#### 4.2 動作主名詞

##### 4.2.1 用例

「主婦する、先生する、家族する、夫婦する・・・」

- (5) 「今日は主婦する日」「主婦してるね」というように、「主婦」は動詞で語られるようになった。・・・生活の一つの側面として「主婦する」自分を捉えるようになったことの表れだ。

[http://www.dnp.co.jp/cio/mediavalue/report/pdf/mvr\\_vol50.pdf](http://www.dnp.co.jp/cio/mediavalue/report/pdf/mvr_vol50.pdf)

- (6) アメリカの大学でアメリカの教授さんたちが中心になって研究して・・・日本文化を取り入れてくれるのって興味深い現象です。実際にワカマル君がアメリカ中の学校で先生するようになったら、どんなことが起こるのでしょうか？

<http://nyliberty.exblog.jp/18410886/>

- (7) わたしは、普通に生活していただけること、夫婦で会話、家族でスーパーへの買い出し、家族と旅行、一人でいけるはずなのに、例えば車検に車をだすのまで妻子も一緒に行く等々、妻子と常に行動を共にすることは、家族してるってことだと思う。

<http://blogs.yahoo.co.jp/keigdlwall/6245724.html>

- (8) 離婚に向け準備するか、子供がまだ小さいので仮面夫婦でとり

あえず子供の将来を考えて夫婦するか悩み中です。

<http://oshietel.nifty.com/qa8095383.html>

#### 4.2.2 特質構造

動作主名詞は、主体の身分や職業などを表すものがおおく、ここでは「主体役割」だけにしぼって分析を行う。

「主婦」:

主体役割: 女性が家庭のために捧げ、すべてを尽くすこと

「先生」:

主体役割: よい模範を示し、教え子により影響を与える

「家族」:

主体役割: 家庭の一員でありながら、家庭のために尽くし、みんなと仲良く過ごす

「夫婦」:

主体役割: 主体である夫と妻がそれぞれ家庭への責任や役割分担を果たす

#### 4.2.3 語彙概念構造

動作主名詞の語彙概念構造を次のようにまとめることができよう。

[ [ ]<sub>x</sub> ACT ON-[ ]<sub>y</sub> AS/LIKE [ Noun]<sub>z</sub> ]

(xが「名詞」yを使って、zのような「振る舞いをする」)

#### 4.3 位置名詞

##### 4.3.1 用例

「塩・胡椒する、バターする、香水する、・・・」

(9) 塩胡椒して焼いた肉は、塩味とかすかに残る胡椒の香りが肉全体に平面的に広がる。一方、焼いてから塩胡椒した肉は、肉の味と塩の味、胡椒の香りが鋭角的に立つ。

<http://president.jp/articles/-/9840>

- (10) 女性に質問です。男でレディースの香水する人はどうですか？悪くないと思いますよ。ただ、私は香水が好きでよくいろんな香りを嗅ぎますが男性らしい、とは思いませんね。

[http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question\\_detail/q1362019583](http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1362019583)

- (11) 子供が料理でバターするときに「ママ、バターを切って」といわれるのも面倒だった。⇒これからは、子供が自分でバターを取り出して使えますね！

<http://happyhappy17.blog24.fc2.com/blog-entry-995.html>

#### 4.3.2 特質構造

位置名詞は、位置の変更により、そのものの持つ状態に変化するものである。ここでは「目的役割」と「主体役割」の意味分析を行う。

「塩・胡椒」:

目的役割：料理の味付、風味を際立てる

主体役割：動作主が塩・胡椒を使って、仕上げに料理の味付を調える

「バター」:

目的役割：パンの味付けや炒め物の準備

主体役割：動作主がバターで対象物をまんべんなくその状態にする

「香水」:

目的役割：からだに特別な匂いを加える

主体役割：動作主が礼儀やエチケットのため、香水をふって相手にいい印象を持たせる

#### 4.3.3 語彙概念構造

位置名詞の語彙概念構造を次のようにまとめることができよう。

[ [ ]x CAUSE [BECOME[ [ ]y BE AT-ON [ Noun ]z] ] ]

(x が y の「名詞」を～の上に置いて、z のような状態になる)

#### 4.4 物材名詞

##### 4.4.1 用例

「お茶する、鍋する、一杯する、ご飯する・・・」

- (12) 「アップルのクックCEOとお茶する機会」、6200万円で落札。(CNN) 「米アップルのティム・クック最高経営責任者(CEO)と一緒にコーヒーを飲む機会」が14日、61万ドル(約6240万円)で落札された。

<http://www.cnn.co.jp/tech/35032054.html>

- (13) サークルで集まって先輩A(男)のアパートで鍋することになった。私(女)は親戚に農家が多くて野菜をよくタダでもらえるからそれを主に提供した。白菜、ネギ、水菜など鍋によく使う野菜類を一通り・・・。

<http://shuraba-matome.com/archives/33685008.html>

- (14) 秋葉原でご飯するなら！隠れた名店5店。秋葉原というと、アニメ、マンガ、ゲームなど、世界に冠たるオタク文化の発信地です。若者が集まるので、飲食店も若者向けのファストフードが多いと思われがちですが・・・。

<http://news.livedoor.com/article/detail/8070895/>

- (15) 先日の天体ショー「皆既月食」は、ご覧になりましたか？・・・外で月を見ながら、「月見喝一杯！」と、いきたいところでしたが、寒過ぎて諦めました。ところで、年末になると、これを肴に一杯する人が増えてるみたいです。

<http://blog.zaq.ne.jp/jcom111/category/41/>

##### 4.4.2 特質構造

物材名詞は、名詞の元の材料から派生し拡張された意味がほとん

どである。ここでは「目的役割」と「主体役割」だけ分析し、考察を行う。

「お茶」:

目的役割: のどの渇きをほぐす、水分の補給になる

主体役割: 複数の人が一緒にお茶を飲みながら歓談し、何かを成し遂げる

「鍋」:

目的役割: いろいろな食材が中に入れられる、体が温まるもの

主体役割: 複数の人が集まって、鍋の料理を食べながら、友達や家族の仲を深める、またはよくする

「ご飯」:

目的役割: おなかがいっぱいになれるもの

主体役割: 複数の人が会食し、歓談を通して何かを成し遂げる

#### 4.4.3 語彙概念構造

物材名詞の語彙概念構造を次のようにまとめることができよう。

[ [ ]<sub>x</sub> CAUSE [BECOME[ [ ]<sub>y</sub> BE WITH [ Noun ]<sub>z</sub>] ] ]

(x が y の「名詞」を使って、z のような状態にする)

#### 4.5 精神名詞

##### 4.5.1 用例

「哲学する、文学する、学問する、ブログする・・・」

(16) 哲学はどのように学ぶのか。哲学が純粹に知を愛する(フィロソフィア)ものであるならば、現在における諸問題のみの考察だけでよいはずであるのに、哲学するのためになぜ哲学史を学ぶ必要があるのだろうか。

<http://www.kyoto-up.or.jp/book.php?id=1839>

(17) 「学問をする」という言葉在日常的に使うタイミングはあまりありません。せいぜい大学に進学して「学問」という言葉に触

れる・・・。

<http://wadajuku.jp/archives/szk/28-2>

- (18) そうそう、ココでブログするのが楽しい理由も書いとく。ココだとトラックバックやコメントとかを相手にする必要がないからなんだよね・・・

<http://web-g.org/post/69930845>

- (19) 文学は無力である。しかし、文学は勝利する・・・(p118)  
文学すること思考することのアクチュアリティはまた別の言い方で提起されてもいる。

<http://syunpo.exblog.jp/19045427>

#### 4.5.2 特質構造

精神名詞は、人間の知的な考えと行動を表すものが多い。ここでは「目的役割」と「主体役割」だけ考察する。

「哲学」:

目的役割: 物事を論理的に推論し、思想の本質を求める

主体役割: 動作主が哲学を通して、世の中のすべてを論理的に考え行動する

「学問」:

目的役割: 学術的な真実を追求し、自分の知的能力を高める

主体役割: 動作主がある知識を専門とし、それについて考察・研究する

「ブログ」:

目的役割: 考えや主張をネットで公表する手段

主体役割: 動作主が自分の考えや主張をネットで公表し、他人から共有や共感を求める

#### 4.5.3 語彙概念構造

精神名詞の語彙概念構造を次のようにまとめることができよう。

[ [ ]<sub>x</sub> CAUSE [BECOME[ [ ]<sub>y</sub> BE AT [ Noun ]<sub>z</sub>] ] ]

(x が y の「名詞」を使って、z のような知的状態にする)

## 5. 「名詞する」の意味タイプと構文条件

### 5.1 名詞転換動詞の概念構造

4 でまとめられた名詞転換動詞の概念構造をおよそ次のような五つのタイプにまとめることができる。

- a. 道具名詞：「蓋する、マフラーする、ブラシする、ティッシュする・・・」

[ [ ]x ACT ON-[ ]y BY-MEANS-OF [Thing Noun] ]

(x が「名詞」を使って y に働きかける)

- b. 動作主名詞：「主婦する、先生する、家族する、夫婦する・・・」

[ [ ]x ACT ON-[ ]y AS/LIKE [ Noun]z ]

(x が「名詞」 y を使って、z のような「振る舞いをする」)

- c. 位置名詞：「塩・胡椒する、バターする、香水する、・・・」

[ [ ]x CAUSE [BECOME[ [ ]y BE AT-ON [ Noun ]z] ] ]

(x が y の「名詞」を～の上に置いて、z のような状態になる)

- d. 物材名詞：「お茶する、鍋する、一杯する、ご飯する・・・」

[ [ ]x CAUSE [BECOME[ [ ]y BE WITH [ Noun ]z] ] ]

(x が y の「名詞」を使って、z のような状態にする)

- e. 精神名詞：「哲学する、文学する、学問する、ブログする・・・」

[ [ ]x CAUSE [BECOME[ [ ]y BE AT [ Noun ]z] ] ]

(x が y の「名詞」を使って、z のような知的状態にする)

### 5.2 事象の捉え方の違い

5.1 のまとめからも分かるように、日本語における名詞転換動詞の意味構造は、物理的な動作や手段でなく、その名詞の意味役割に含まれる結果の状態や変化の状態がほとんどである。これは、名詞転換動詞が動作を求めず、その名詞の「目的」を求めるという事象の捉え方の違いを示している。

例(1)の「お鍋に蓋する」表現を、「蓋を閉める」という物理的な動詞句と比較すれば分かるように、「蓋する」の場合は、料理の仕上げにする動作で、その料理を出来上がりの状態にさせるという意味が含まれる。これに対して、「蓋を閉める」ことは、単なる蓋を閉めて、中のものを外に逃がさないようにする、つまり物理的な動作の意味しか読み取れないのである。

これは、要するに

《状態》	⇔	《物理的動作》
「お鍋に蓋する」	⇔	「蓋を閉める」
「主婦する」	⇔	「主婦を務める」
「塩コショウをする」	⇔	「塩を振る・胡椒をつける」
「お茶をする」	⇔	「お茶を入れる」
「学問する」	⇔	「学問を志す」

などの例も同じように、日本語の名詞転換動詞がほとんど「状態 (state) (アル型) ([ ]y BE AT- [ Noun ]z ])」の概念構造になっている。つまり、「する」の付加によって、その名詞の持っている「状態」になる（またはする）のが「名詞する」構文の意味概念である。

### 5.3 名詞のデキゴト化（イベント化）

事象の捉え方だけでなく、名詞を一つのデキゴト（イベント）としての意味に読み取れるかどうか、「名詞する」の構文条件一つである。

「先生する」は先生という仕事でなく、先生のしかるべき模範を示し、教え子にいい影響を与えることである。「香水する」もただの「香水をつける」のとは違い、「香水する」ことによって、人間関係をいい方に持たせるという意味になる。「ブログする」は内容より、ブログに書くこと、またはブログを持ってソーシャル的なイベント活動をすることに意味があるのである。「鍋する」も「鍋料理を作る」の場合の「鍋」の意味概念とは決して同じ概念にならないだろう。

これは要するに、名詞転換動詞を「一つのデキゴト（イベント）」の意味に捉えるかどうかは、「名詞する」の意味タイプと構文条件に深くかかわっていると考えられよう。

## 6. おわりに

本稿は、日本語における「蓋する」「主婦する」「塩・コショウする」「お茶する」「哲学する」のような、名詞転換動詞の意味タイプの類型化を試みたものである。特質構造 (Qualia structure) という概念に基づきながら、各類型の名詞転換動詞の語彙概念構造 (LCS) をまとめてみた結果、日本語における「名詞する」構文の成立には、「事象の捉え方の違い」と「名詞のデキゴト化(イベント化)」という二つの語彙的概念が深く関わっていることが明らかになった。

しかし、本研究では、考察対象の設定・語の範囲と選択基準がやや客観性に欠けていること、特質構造 (Qualia structure) による分析も主観的な判断に委ねられ、間違いも決してないとは言いがたいこと、そして「名詞する」と「名詞をする」の構文的な違いも明らかにしなければならないこと、など考察の不十分なところがまだ多数残されているが、いずれも今後の課題としておきたい。

## 参考文献

- 池上 嘉彦(1981)『「する」と「なる」の言語学』大修館書店  
影山 太郎(1996)『動詞意味論—言語と認知の接点』くろしお出版  
(1999)『形態論と意味』くろしお出版  
影山 太郎・由本陽子(1997)『語形成と概念構造』研究社出版  
国立国語研究所(1972)『動詞の意味・用法の記述的研究』  
秀英出版  
国立国語研究所(2004)『分類語彙表 増補改訂版』大日本図書  
廖 紋緻(2012)「モノ名詞＋ヲスル構文」政治大学日本語文学系碩士  
論文